

お茶の時間

アラブ書道のご紹介

伊佐 二久 陸士55

世界各国に文字を使った書道があり、国によっては芸術品として尊重されている。日本でも楷書、行書、草書、隷書、篆書などがある。

今の若い人はプリントするので楷書しか使わないが、年配の人は筆やペンを使って行書、草書で書いており、あまり達筆だと読みにくい文章もある。

英語では calligraphy (カリグラフィ) と言うが、書道として芸術にまで高めたのは中国、日本、アラブ諸国ぐらいではないだろうか。このためプロの書道家もあり、書道教室も開かれている。

私が子供の頃、小学校で習字の時間があり、筆を買って練習し、時には褒められて壁に貼られたこともあったし、先生が書いた文章は大きな額や掛け軸に入れて床の間に飾ったものである。

アラビア文字も平仮名と同じく曲線部分が多いので、いろいろの模様も作りやすいのか、皿や花瓶などに文字を美しく組み合わせさせて装飾的に書いてあるものもあった。

日本でも文字を用いて人の顔を書いたり、経文で仏像を描いたりしたのを

見たことはあるが、それほど多くはなかった。

エジプトではアラビア文字を美しく変形して壁や柱に書いてあったり、パピルスに文字を使って馬や鳥の絵を描いたり、コーランを美しい配列で書いて見かけることが出来た。

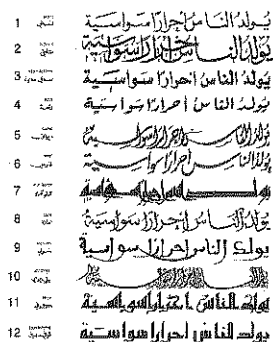
筆は毛筆でなくパピルスの茎を使っている。付図はアラビア文字の各種書体で、漢字と同じく、同じ文字でも書き方によってこんなにも違うのかと感心したものである。

1のナスキと4のルクアは学校で教える標準的書体である。2のスルシーはコーランの書体、3の現代風ナスキは近代的にアレンジしたものでサインなどに使われている。

6のファルシーはイランで使われているが、言葉はペルシャ語で文字は同じでも意味が全く違う。英国、フランス、ドイツが同じローマ字を使い、日本、中国は同じ漢字を使っているが意味は全く通じないのと同じである。

7の古代カーファイはイラクの伝統的書体、8のイジャザは装飾的、9のマグレビはモロッコ、10のジェリ、デイワニは5と同じでより装飾的、11のカーファイ、12の現代風カーファイはよりモダンである。

【付図：アラビア文字の各書体】



意味は皆同じ「すべての人は生まれながらにして自由であり、平等である」で、福沢諭吉の「天は人の上に人を作らず、人の下に人を作らず」と相通じる言葉である。

イスラム国でもアラビア語を使わない国は多いが、コーランはアラビア語なので読むことは出来る。エジプトには口語のアラビア語(アンメイヤ)を話す人が読み書きできない人が半数近い(1986年)。エジプトも中学まで義務教育であるが、私がいた1990年頃は小学校にも行けず、読み書きできない子供が少なくなかった。

ここである知人の作品を紹介させていただく。彼女は私がカイロ大学小児病院プロジェクトのチームリーダーを勤めていた時の調整員であった。

読み方は Masha Allah (マーシャアッラー)で「アッラーが望まれたこと」という意味で、お目出たいこと、例えば誕生日、試験に合格などのお祝いに使われている。

頂いた作品も来年私が白寿(99歳)を迎えるので「少し早いが」とのお言葉つきで頂いたものである。



また Masha Allah (インシャアッラー)は「アッラーの神が望まれたら」という意味で、これから起こることに使われており、私たちがアラビア語の分からない者たちも便利なので、挨拶の時に使っていたものである。

アラブ書道教室は東京、岡山間に17教室もあり、毎年作品展が開かれている。昨年からアルアル書道展という合同展が開かれている。

4カ国の書道(アラビア書道、ペルシャ書道、モンゴル書道、ハングル書道)の作品を同時に展示すると言う珍しい書道展である。今年は10月半ばを予定されている。

以上各国の書道、特にアラブ書道についてご紹介させていただいた、書道に関心のある方のご参考になれば幸いです。